

## 6 歯科技工士学科における中間試験実施効果の検討

植木一範

明倫短期大学 歯科技工士学科

keywords : 歯科技工教育, 成績評価, 中間試験

### はじめに

近年, 本学入学生の履修歴の多様化は顕著であり, 高校までの学習方法や学習時間などにも差が認められている。国家試験合格を目指す歯科技工士の学科目教育においても, 学習方法がわからずに不合格点を採る学生もいることから, シラバスや成績評価方法の見直しも教育改善の重要な項目としてあげられている。

歯科技工士学科では, 平成24年度より一部科目において定期試験のほかに中間試験を実施した。その効果について, 成績およびアンケートにより検討したので報告する。

### 対象および方法

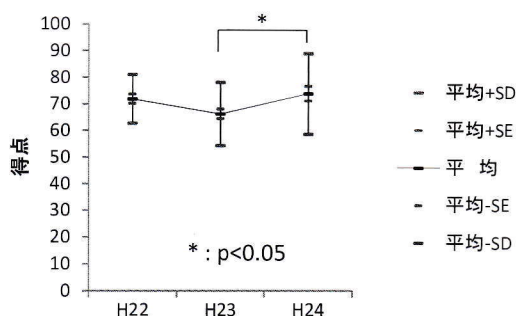
中間試験を実施したH24年度歯科技工士学科1年次学生の前期成績を, 中間試験のなかったH22およびH23年度の1年次前期成績と比較した。なお, 中間試験は, 国家試験科目2科目を含む5科目で実施された。いずれも, 各年度の最終成績に対してANOVAおよびSheffe法による多重比較検定を行い比較した。また, H24年度2年次学生に学習方法や中間試験実施についてのアンケートを実施し, 学習の実態を調査した。

### 結果および考察

H22～H24年度における1年次前期総合成績の平均値を比較したところ, 有意差は認められなかった。従って, 年度間の学力差や教授方法, 試験問題等については大差ないといえる。次いで, H24年度における中間試験実施の5科目について年度間比較を行ったところ, 5科目すべてにおいて, H23年度成績に比較してH24年度成績の向上がみられた。国家試験科目AとBにおいては, その間の成績に有意な

向上が認められ, 中間試験実施効果が顕著に現れていると考えられる。

科目Aの平均値  
【3年度比較】



また, アンケートの結果より, 高校時代に定期試験のほかに中間試験のあった学生は92.1%であり, ほとんどの学生が2ヶ月以内の講義内容に対する短期間, 小範囲における試験形態に慣れているといえる。一方, 明倫の定期試験に関わる学習は, 高校より難しいとする学生は, 55.3%と約半数に止まり, 高校よりも楽という学生も45%にのぼる結果となった。明倫で中間試験を実施した方が良いか否かはほぼ半数に割れる結果となった。中間試験の実施は, 高校までの短期間, 小範囲における試験勉強の方法を引き継ぐことができていた反面, 勉強や試験から逃れたい学生には, 定期試験の一回で良いという意見も多数見受けられた。中間試験の実施は, 少なくとも, 普段勉強しない学生にとっては, 試験勉強の回数や期間が増えることとなり, 成績の向上につながる面もあると考えられる。

### まとめ

中間試験実施により, 前年度に比較して成績の向上がみられた。中間試験の実施は, 歯科技工士学科学生にとって成績向上へ有効な手段であると考えられる。